from M

第 85 号

岸和田市郷土文化課・きしわだ自然資料館

令和 4 年 4 月 22 日

日本庭園からみる自然表現

山岡　邦章

日本庭園と自然の関係について考えます。そもそも庭園とは何でしょうか。それは、区切られた敷地内において、建築物に付随して、何らかの行為を行うため、思想と美意識に基づいて造形された屋外空間、と定義されます。わかりにくければ、建物やその施設内に、自然を再現、表現したもの、とでも言いましょうか。庭園は敷地内に自然を創り出すことを第一の目的としています。

図 1. 岸和田城天守閣から見た八陣の庭

（国指定名勝）

では我が国における庭園のはじまりは、いつなのでしょうか。日本で本格的な庭園が造られるようになったのは 7 世紀はじめで、当時、朝鮮半島にあった国のひとつである百済（くだら）から技術を導入したことによるものです。しかし、この頃の庭園は奈良県明日香村から発掘された宮廷庭園の遺構である、飛鳥京跡苑地（国指定史跡・名勝）で知られるように、噴水や導水施設など、まだまだ“日本的”な庭園ではありませんでした。

その後、新羅（しらぎ）や唐などの影響を経て、８世紀後半に、入り組んだ池や州浜や石組、景石などが揃う日本的な庭園が造られるようになり、日本庭園の初源的（基礎的）な景観が完成します。平安時代になると、平等院（京都府宇治市）にある極楽浄土の世界観を表現した浄土式庭園に代表される、苑池式（えんちしき）（池泉回遊式）庭園が造られます。以後、日本庭園は独自の文化として様々な様式で展開します。なかでも 15 世紀後半に成立した枯山水（かれさんすい）庭園は、これまでの庭園のように水を用いず、石組を主体として自然の景色を抽象的に表現した庭園様式で、禅宗寺院において発達しました。

ただ、「枯山水」という字が作庭の用語として最初に現れる文献は意外と古く、平安時代、藤原頼通

の子・橘俊綱の編集とされる『作庭記』(『前栽秘抄』) です。しかし読み仮名がなく、かれせんずいと読むという意見もあり、また、現在に残る枯山水と同じものなのかといった議論もあります。

枯山水庭園は、これまで以上に石の役割が重要となりました。それまで池や海などに見立てていた苑池（水辺）等が白砂などで表現され、水の流れを砂紋で表現しました。また島や山、崖、滝など自然の要素を石で表現しています。つまり苑池式庭園では自然の具象化（再現）が追求され、枯山水庭園では自然の抽象化が進むのです。

このような分化を経て、さらに様々な型式の枯山水庭園が造られるようになります。江戸時代にはさらに多くの禅宗寺院や大名屋敷や武家屋敷でも枯山水庭園が造られました。しかし明治維新後、多くの大名屋敷や武家屋敷の庭園は廃絶し、廃仏毀釈の影響で寺院の庭園も荒廃がすすみました。

明治時代以降、近代の庭園には大きく３通りの流れができあがります。まず、新興の資産階級や政治家の邸宅には西洋風の庭園が採り入れられました。三菱財閥の創業者である岩崎弥太郎の旧岩崎邸庭園（東京都台東区）や、旧古河家庭園（東京都北区）、諸戸家庭園（三重県桑名市）などに代表される西洋風の庭園です。一方で七代目小川治兵衛が手掛けた、明治の元勲、山縣有朋の庭園、無鄰菴（京都市）に代表されるような、自然主義的な近代日本庭園が誕生しました。

そして昭和初期、日本庭園史に大きな足跡を残した二人の作庭家が現れました。飯田十基と重森三玲です。飯田は、明治以来の自然主義的な作庭を大きく推し進め、「雑木の庭」として環境との調和に重点を置いた一様式を確立しました。

図 2. 岸和田城と八陣の庭

最後の流れが重森三玲の創出したモダンアートを兼ねる日本庭園です。この重森が作庭した庭の評価は、芸術性が高いとの肯定評価、庭としての快適性が悪く、このようなものは日本庭園ではないという否定評価に分かれます。結果論ですが、重森は飯田十基と対極の関係にあったといえるでしょう。

岸和田城内にある「岸和田城庭園（八陣の庭)」(図 1,2) は、重森三玲の作で、石で自然を表現した枯山水を、さらにアートとして昇華させたもので、日本人がたどってきた自然観から生み出された庭園です。重森三玲は、庭園を芸術という概念のもとに再創造し、その前衛的な立体造形指向は自然を基調としながらも、従来の日本庭園の範疇に囚われない全く新しい方向性を示したものとして、また、1000 年以上の歴史をもつ日本庭園史の大きな流れの中の一翼として、高く評価される自然表現なのです。

（やまおかくにあき・岸和田市郷土文化課文化財担当長）

新アドバイザー就任ごあいさつ

藤本　龍之介

初めまして。2022 年 4 月より、きしわだ自然資料館のアドバイサーを務めることになりました、藤本龍之介と申します（図 1）。自然資料館では、生体展示の管理、野外調査、行事の補助などで、お手伝いさせていただきます。

図 1．著者近影（能勢町立小学校メモリアルホール・能勢の学校博物館での展示作業中）

私はこれまで、能勢町立小学校メモリアルホール・能勢の学校博物館や大阪市立自然史博物館、高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）、貝塚市立自然遊学館など複数の博物館にて標本の作製、生物の採集や飼育、またそれらの展示に携わってきました。標本作製については、昆虫、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類など、多岐にわたる分野で行っています。現在は、プラスティネーション（図 2）という手法を使った、生物内の水分など、腐敗や変質の原因となる物質を樹脂に置き換えることで保存を可能にした標本を、簡単な設備で作ることができないかと実験中です。プラスティネーションによる標本のメリットは様々ありますが、その一つが、壊れにくい標本となるため、標本そのものに直接触れることができるという点です。これは、学習現場などでの使用を想定した場合、とても魅力的なものです。学校の授業や博物館での体験は、ただ知識を得るというだけではなく、実際のフィールドへの足掛かりとなるものです。実物の標本はそれだけで説得力がありますが、実際に手に取るという体験をすることでより理解が深まり、その学びがフィールドとの結びつきを強くしてくれるのではないかと考えています。いずれそのような場で活用できるプラスティネーション標本を作製することが、現在の目標です。

図 2．プラスティネーション標本

標本資料や展示に関する業務経験のほかに、大阪市内の小学校で学校内に生息している生物の調査を行う授業があり、その昆虫担当の講師を務めることもあります。よい学びとなるよう授業の手法や生物のお話を考えていくのですが、生徒とのやり取りの中で気付かされることも多々あり、日々勉強であると感じる次第です。

このような経験を活かしつつ、岸和田市の環境に寄り添った業務が行えるよう、研鑽を重ねていきたいと考えております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

（ふじもと　りゅうのすけ　きしわだ自然資料館アドバイザー）

Information

●自然資料館

第 26 回ネイチャーフォト写真展

写真サークル「クローズアップ岸和田」の会員による、身近な動植物の写真展です。ふだんは気がつかないような自然の姿を発見できるかもしれません。

会　期：2022 年 4 月 10 日(日)～5 月 4 日(水・祝)

時　間：午前 10 時～午後 5 時
(入場は午後 4 時まで)

会期中の休館日：毎週月曜日

場　所：きしわだ自然資料館 1 階ホール(堺町)

入場料：無料(常設展は高校生以上 200 円)

●きしわだ自然友の会　会員募集中

きしわだ自然友の会は、自然資料館と協力し、独自の行事や出展、会誌などを通して自然を楽しく学んでいる団体です。

自然が好きで、生物や地学をもっと楽しみたい・学びたい人は、ぜひご入会ください。未就学児の方も参加できる行事も多数あります。

対　象：身近な自然に興味のある個人・家族

期　間：加入日～翌年 4 月 30 日

費　用：個人会員年間 2,000 円（中学生以上の人が 1 人で入る場合）・家族会員 3,000 円（同居家族全員が対象）、特別会員 10,000 円（友の会を援助してくださる人・団体）

●岸和田城の展示

岸和田城企画展　「岸和田市と高石市の文化財ー広域連携をはじめるにあたってー」

令和 4 年 4 月 1 日から、岸和田市は高石市と埋蔵文化財業務を共同で処理することとなりました。これにより、市を超えて一体となって文化財保護を行うことができます。本企画展は、高石市との広域連携を記念し、過去の発掘調査成果から岸和田市と高石市の遺跡を紹介します。

期　間：2022 年 5 月 15 日（日）まで

開場時間：　午前 10 時～午後 5 時
(入場は午後 4 時まで)

会　場：岸和田城天守閣 2 階展示室
（岸和田市岸城町）

休館日：毎週月曜日

入場料：大人 300 円、中学生以下無料

問い合せ：岸和田市郷土文化課郷土史担当（072-423-9689）

【from M】では，みなさまからのご意見，ご感想，ご質問等をお待ちしています．博物館での学習，研究等に関する情報，地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら，ぜひご投稿ください．お名前，連絡先，所属等をご記入の上，右記の宛先までお送りください．電子メールでも受け付けています．

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5
きしわだ自然資料館
TEL:(072)423-8100
FAX:(072)423-8101
Email:sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ:
https://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/

※お願い　[fromM]は，学校教職員に１部ずつお配りください．
担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが，よろしくお願い申し上げます．